

韓国農林畜産食品部プレスリリース 2019年12月11日付

漣川郡（ヨンチョンゲン）野生いのしし弊社体2個体でASFウイルス検出
（野生いのしし42,43例目）

<http://www.mafra.go.kr/mafra/293/subview.do?enc=Zm5jdDF8QE8JTJGYmJzJTJGbwFmcmElMkY2OCUyRjMyMjI0NCUyRmFydGNsVmllldy5kbyUzRmJic0NsU2VxJTNEJTI2aXNWaWV3TWluZSUzRGZhbHNlJTI2cmZzRW5kZGVtdHIIM0QlMjZwYWdlJTNEMSUyNmJic09wZW5XcmRTZXEIM0QlMjZyZ3NCZ25kZVN0ciUzRCUyNnNyY2hXcmQlM0QlMjZwYXNzd29yZCUzRCUyNnNyY2hDb2x1bW4lM0QlMjZyb3clM0QxMCUyNg%3D%3D>

□環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は京畿道（キョンギド）漣川郡（ヨンチョンゲン）2次フェンスの中で発見された弊社体2個体からASFウイルスが検出されたと12月11日明らかにした。

○弊社体は漣川邑（ヨンチョンウプ）の山と新西面（シンソミョン）の農耕地そばの溝で12月10日環境部捜索チームによってそれぞれ発見された。漣川郡（ヨンチョンゲン）はASF標準の行動指針により試料を採取して現場の消毒と弊社体の埋却措置をとった。

○国立環境科学院は12月11日、ASFウイルス陽性の確定診断結果を関係機関に通知した。これで漣川（ヨンチョン）で12件のASF陽性確定診断となり、全国的には43件になった。

□国立環境科学院生物安全研究チーム長は“今回発見された感染弊社体は全て2次フェンスの中で発見された”として、“2次フェンスの中は感染危険性が大きい地域で、今後も感染弊社体が発見される可能性がある”と話した。

（以上）